

曾爾村が目指す子育て環境

曾爾村

曾爾村では、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化してきており、世代を通して子育てを学ぶ機会が少なくなってきました。家庭と地域そして学校との連携を強化し、子どもたちがいきいきと育まれる環境づくりを推進するとともに、社会全体で子どもと子育てに関心を持ちながら、子どもを安心して生み育てられる村を目指します。

1 基本データ <県記載>

- ・順位は県内市町村の降順
- ・カッコ書きは県全体の数値

①人口増減率（H11年4月～H30年12月・約20年間）					
増減率	順位	うち自然増減		うち社会増減	
		増減率	順位	増減率	順位
▲43.1% (▲6.2%)	34位	▲18.8% (▲2.1%)	31位	▲24.2% (▲4.1%)	34位
②合計特殊出生率			③有配偶出生率 (15～49歳女性有配偶者1,000人あたりの出生数)		
H20～24年(年率)	順位	対H15～19年(年率)増減	H27年	順位	
1.18 (1.29)	32位	+0.03 (+0.06)	69.5 (74.4)	23位	
④出生数(人)		⑤年少人口割合(15歳未満)			
H30年	H30年10月	順位	対25年10月増減		
5 (8,947)	6.8% (12.0%)	30位	+0.1㊦ㄗト (▲0.7㊦ㄗト)		
⑥子育て世代割合(25～44歳)					
H30年10月	順位	対25年10月増減			
14.0% (20.7%)	29位	▲0.7㊦ㄗト (▲3.8㊦ㄗト)			

2 子育て家庭の現状と支援に関する課題

- ① 過疎化による人口減少が進む中、子育てに関心をもっていただける多様な主体となる方を確保することが課題。
- ② 少子化により地域の子どもが減少し、また、核家族化が進む中で、子育てについて孤立化しやすい環境にある。子育て支援だけでなく、親支援（親育て）も必要とされることが課題。

3 子育て家庭への支援に関する基本的な考え方（目指していること）

- ① 必要な時に利用できる多様な保育サービス及び在宅の乳幼児も含めた子育て支援の充実。
- ② 子どもが減少し、地域的にも点在していることから、安全安心に子どもたちを遊ばせることのできる場の確保。
- ③ 村の課題である少子化を利点と捉え、子どもたち一人ひとりに目を配る教育や子育てのできる施策を実施。

4 子育て家庭への支援に関する特徴的な取組

- ① 中学生以下全ての子どもの医療費及び保育園児・小中学生の給食費並びに小中学校修学旅行費の保護者負担金の無償化。
- ② 保育士を増員しての0歳児保育の取り組み。
- ③ 子育て世代包括支援センターの設置による、妊婦期から子育て期に渡るまでの育児相談等についての切れ目のない支援。

5 多様な主体による子育て支援の取組

- ① 保育園が老人クラブの方を招待し、園児と一緒に野菜植えや花植えを行うことでの交流。
- ② 地域の方のご好意により野菜の収穫体験をさせていただいたり、地域行事に参加させていただくことでの、地域住民との交流。
- ③ 主任児童委員が定期的に小中学校と保育園を訪問し、子どもの様子についての情報交換。

詳しくは 曾爾村ホームページ

<https://www.vill.soni.nara.jp/forms/top/top.aspx>